

消火用水など運搬で協定

災害時支援 県と県生コン協同組合連



災害支援の協定を披露する県生コンクリート協同組合連合会の関係者ら＝県庁で

災害や火災時に必要な水を確保するため、県は六日、県生コンクリート協同組合連合会と支援協定を結んだ。協定では、連合会に加盟する五十社が、県からの要望があった際にコンクリートミキサ一車で水を運搬する。火災の消火用水や避難所のトイレ用水などへの活用を想定している。大型車一台で約四トンの水が運べるという。

林健一郎会長らが県

庁を訪れ、鈴木英敬知事と協定書交換した。林会長は「生コン

クリートの業者は地域密着で仕事をしている。地元で災害が起きた場合は微力でも協力したい」と意気込んだ。鈴木知事は「火災や地震での水の確保は重要な課題。締結後も訓練などでしっかりと連携していきたい」と話した。(吉川翔大)



県と県生コンクリート協同組合連合会

災害時の水運搬で協定

会員がミキサー車使い給水

県と県生コンクリート協同組合連合会は六日、地震や大規模火災の発生に備えるため協定を締結した。災害発生時に連合会の会員がコンクリートミキサー車で避難所や火災現場に水を運ぶ。

コンクリートミキサー車は、新潟県糸魚川市の大規模火災などで給水に役立つ



協定を締結した林会長（左）と鈴木知事（県庁で）

た実績がある。県内には四百十八台あり、一台当たり最大四五〇リットル運搬できる。連合会が県に協力を申し出て協定締結が決まった。

協定では、地震や大規模火災が発生した場合、県からの要請を受けて連合会の会員がコンクリートミキサー車で給水。避難所でのトイレの排水などに使う生活用水や火災現場での消防用水を想定している。

県庁で締結式があり、鈴木英敬知事が「県内では伊勢市の商店街や名張市の民間工場で火災があった。水は災害現場でも火災現場でも重要。非常に時期を得た協定で感謝している」とあいさつした。

連合会の林健一郎会長は「生コンクリートは長距離を運べないため地域に密着して営業しており、どの業界よりも地域に愛着がある。災害が起きないことを願っているが、万が一の場合協定は協力したい」と述べた。

災害時応急対策 用水確保で協定

三重県と三重
県生コン協組連



三重県と三重県生コンクリート協同組合連合会（林健一郎会長）は6日、三重県庁で、「災害応急対策に必要な用水の確保

に関する協定」を締結した。写真。締結式には、県側から鈴木英敬知事、福井敏人防災対策部長ら、同会から林会長はじめ同会の県内7協同組合の理事長らが出席し、協定書を交わした。

災害協定の内容は、地震や大規模火災などの災害時に、県からの要請に応じて連合会の50社（63工場）の組合員がコンクリートミキサー車（現在418台）で応急対策に必要な生活用水（飲料水、手洗い水を除く）や消防用水を運搬するもの。

鈴木知事は、東日本大震災の避難所で生活用水の不足が問題になったことや、新潟県糸魚川市の大規模火災で地元のミキ

サー車が給水して延焼を防いだ事例を取り上げ「災害時には飲料水だけでなく生活用水や消防用水が必要であり、今回の協定に大変感謝している」と感謝の意を述べた。

林会長は、生コン業が地域密着型の業態で、各地に生コン工場があることに触れ「災害が起きないことを願っているが、災害時には7協同組合が一致団結して対応する」と決意を述べた。また、各組合が地元自治体の消防機関とも順次、災害協定を締結し、地域連携にも取り組んでいる状況を説明した。